

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191513662		
法人名	社会福祉法人 純心福祉会		
事業所名	グループホーム もりの家 花ユニット		
所在地	北海道茅部郡森町字上台町330番地85		
自己評価作成日	平成31年1月15日	評価結果市町村受理日	平成31年2月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.hlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2018.022_kan=true&JigyosyoCd=0191513662-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成31年2月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人一人がその人らしく暮らしていけるよう、自立支援の考えのもと、日常生活全般のお手伝いを行い、施設での生活が安心・安全・安楽に過ごせるよう支援しています。また、他者との交流を深める目的や、身体機能の低下を防ぐという目的のため、レクリエーションや各種行事(季節ごとのイベント)の場をより多く提供しています。その他、訪問看護ステーションや隣接する病院など、医療との連携を密に図りながら、利用者様の体調の管理に努めています。職員への指導や育成については、内部での勉強会を毎月行う・外部での研修に参加するなど、職員個々のスキルアップに繋がるような取り組みを実施しています。今後はグループホームの特色をより活かせるよう職員全員が意識を高く持ち、よりよい施設にしていけるよう最善の努力を行っていきたくと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR森駅から約3キロ程離れている鳥崎八景近くの自然豊かな所に「グループホーム もりの家」は立地し、隣接に系列の「グループホーム 温もりの家」がある。事業所は昨年4月に運営者が医療法人から社会福祉法人に移行され、管理者は9月に着任したばかりで日が浅いが、「グループホーム 温もりの家」同様に日本クラフトユニオン労働組合森支部に所属し、職員の充足と給与の改正があり、管理者は現場職員の意見や情報をしっかり取り入れ、一緒に話し合いが出来る環境づくりを目指している。新規に契約した訪問看護事業所は、受診時に利用者には同行して家族に結果を報告したり、医療機関との連携と健康管理、夜間体制の確立など、職員にはよきアドバイザーであり、家族に安心感を与えている、管理者は職員と共に利用者がその人らしく安心して暮らせるよう取り組んでおり、利用者は四季折々の変化に触れながら穏やかに暮らしている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(花ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼を行い、その日の勤務者全員で施設理念を読み上げ、各職員に周知させている。また、日々の業務においても、施設理念を意識して臨むよう指導している。	利用者の意思の尊重を主体とした施設理念を朝礼時に復唱し、職員間の意識の統一を図り、実践に活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事の際など、町内にある保育園からの慰問の受け入れを行うなど、できるだけ地域との交流を持つよう努めている。	町内会に加入して行事の時に協力している。保育園児、歌や踊りを披露して利用者と交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	二か月に一度の運営推進会議にて施設での認知症の利用者への支援方法等を説明・報告している。また、その際に様々な方の意見を聞き、話し合う場を設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在の入居者情報・入退去情報・職員情報・アクシデント報告・行事報告などを運営推進会議にて行っており、参加された方々から様々な意見をいただいている。	定期的で開催している運営推進会議は、社会福祉協議会、地域包括支援センター、地域住民、家族、認知症の会が参加して事業所の現状を明らかにし、質疑応答で表出された課題は質の向上に反映させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の開催や地域包括ケア会議への参加を通じて良好な関係を築けるよう努めている。	地域ケア会議の参加と介護保険更新時や事例困難での相談やアドバイスなど、町担当者とは連携をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は防犯対策として夜間のみ行っている。また、三か月に一度の頻度で身体拘束防止についての勉強会を開催している。	身体拘束廃止委員会主催の勉強会では、禁止の対象となる具体的な行為や日々のケアの中での気づきなど忌憚のない意見交換が行われ、職員の共有認識を図り、抑圧感のない暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束防止とともに、高齢者虐待防止についても定期的に勉強会を開催し、職員に学びの機会を設けている。		

グループホーム もりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(花ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度については、正直管理者はその制度を理解しているが、全職員に周知させるまでには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は時間をかけ丁寧に説明するよう心掛けている。ご家族様がわからないことや疑問に思うことに対しても誠意を持って答えられるよう努力している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御意見・御要望箱を設置し対応している。その他、面会時など直接ご家族様のご意見などを伺っている。	家族の来訪時や電話、メールなどで意見や要望を聞き、出された課題は職員間で話し合い、改善に取り組み、反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催の全体会議・定期的な職員との面談にて意見や提案を聞いている。	昨年4月に運営法人が変わり、9月に管理者が着任した中で職員の充足や待遇改善により職場の環境が徐々に整備されおり、職員は気軽に話し合いながら意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各委員会の設置や担当を割り当てるなど、各職員に責任のある業務を任せることで向上心を持てるよう工夫している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の内部研修の開催、外部研修への参加、先輩職員の日々の指導など、職員を育成する体制の取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会への参加、地域包括ケア会議での意見交換など行い、ネットワーク作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(花ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談にてご本人様の要望や意向を確認し、できるだけ意向に沿える支援ができるよう心掛け、徐々に良好な信頼関係が構築できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談や契約時において、ご家族様の要望や意向を確認し、良好な信頼関係が構築できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用開始の段階において、ご本人様・ご家族様がどのようなサービスを望んでいるのかを確認している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭きや洗濯物量みなど、入居者様が共同で行える作業の提供を行い、共同生活が円滑に図れるよう支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りや定期的な電話での相談、面会時の相談等、家族と連携を図りながら支援するよう心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外部からの面会対応や電話対応など、古くからの知人や友人との交流が途切れないよう支援している。	知人の来訪時には飲み物を用意してゆっくりと過ごせるよう配慮したり、思い出の場所へ出かけるなど、関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	誕生会やその他各種行事を定期的に行い、利用者同士の交流が盛んに図れるよう支援している。また、仲の良い利用者の席を考えるなどの対応も行っている。		

グループホーム もりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(花ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご家族様などから問い合わせがあれば、都度連携を図り調整を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から意向を汲み取ったり、自分自身で伝えられない場合は、ご家族様からの情報収集や、ご本人の普段の表情などからその考えや意向を汲み取るよう努めている。	本人の生活歴や要望を参考に得意な事、苦手な事を把握したり、困難な時には表情や仕草などで意向を汲み取ったり、家族の協力を得ながら取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様・知人・友人・前施設の職員などから情報収集し、生活歴やサービス利用の経過等を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録・バイタルチェック表などを活用し、心身状態の把握等に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族からの意見・要望を把握し、モニタリング・アセスメントをしっかり行うことで現状に即した介護計画を作成している。	本人と家族の要望を反映し、日々の記録と訪問看護師や担当職員からの課題の有無と、かかりつけ医の意見書を参考に協議を重ね、現状に合った介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録として日々の状態を記載、また、申し送りノートを活用しながら、職員間で情報を共有し、実践や介護計画の見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医や他科受診、訪問看護ステーションとの連携など、柔軟な支援やサービスが提供できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の飲食店への外食レクの実施やドライブレクの実施など、地域資源を活用しながら支援するよう心掛けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月一度、隣接する医療機関の主治医が往診に連れられ、相談等行い体調の管理に努めている。また、状態に合わせた他科受診の支援も柔軟に行っている。	本人と家族の希望で従来のかかりつけ医を受診している。新規に訪問看護事業所と契約して利用者の健康管理、受診時の同行と家族への結果報告、医療機関との連携が行われ、夜間体制も整備されている。	

グループホーム もりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(花ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在は訪問看護ステーションとの連携を行っており、毎週1回施設に来てもらい体調面の相談をしている。その他、24時間連絡できる体制も確保している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	隣接する森の里病院の主治医や看護師、森町国民健康保険病院の相談員との連携を密に図り、入退院時早期に対応できる体制を整えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時において、重度化した場合などについての施設の対応を説明している。また、入所後も状態の変化に応じて都度説明を行っている。	入居時に事業所の方針を家族に説明し、同意を得ている。かかりつけ医と訪問看護師の判断や重度化に伴う状況により家族の意向を繰り返し確認しながら支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応について、全体会議の際など、全職員へ説明等を行い周知するよう指導している。特に夜間における対応については、日常的に職員と意見を交わしながら迅速に対応できるよう心掛けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防立ち合いの元、避難訓練や消火訓練、通報訓練等を行っている。地域にむけては、運営推進会議の場などにおいて、協力関係を構築できるよう提案・説明している。	年2回、日中と夜間想定の実施している。消防署立会いで失火場所を設定し、訓練の終了後には評価と反省点が指摘されている。自然災害に備えての講話があり、備蓄も7日分の食品と日用品がある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けについては、職員間で随時話し合いや指摘を行うなど、悪い部分を改善していこうという取り組みを行っている。会議の際も言葉遣いについては都度勉強会のようなものを行っている。	排泄や入浴に伴う羞恥心に配慮し、声かけの仕方と言葉づかいに注意を払い、利用者の尊厳を大切に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が物事を決められるような問いかけを心掛けている。意思疎通の困難な利用者などへは、その表情などから希望等を汲み取るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人その人の生活歴や生活習慣を把握し、できるだけご本人のペースで日常生活を送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとにあった服装の提案やご本人が望む衣服の着用の支援をしている。また、服と一緒に選ぶなどの支援も行っている。		

グループホーム もりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(花ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器の準備や後片付け、簡単な盛り付けのお手伝いなど、できる部分を一緒に行うよう支援している。献立についても、利用者の希望ができるだけ反映されるよう工夫している。	本部栄養士の献立を参考に、お手伝いの出来る利用者と食事作りの一連の作業をしている。暖かい時期には、屋外での流しソーメン、ジンギスカン、外食などを取り入れ楽しい食事に配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量を決められた記録用紙に記載し、その方にあった摂取量が提供できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でできる利用者には声掛け行い歯磨きを行っていただけるよう支援している。お手伝いが必要な利用者へは、一部介助または全介助にて口腔内の清潔を保つよう支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意や便意のあまりない利用者へは、時間を見ながらトイレへの誘導を行っている。オムツ使用は最後の手段として、できる限りトイレで排泄できるよう支援するという取り組みも継続的に行っている。	日中は出来るだけ布パンツを使用しているが、利用者の感覚の衰えが見受けられる時には、さりげなく声をかけて誘導し失禁防止に努め、自立に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の補給、適度な運動、栄養バランスの工夫など、便秘の予防と対策を考え支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	人員の関係などもあり、入浴日を決めて支援しているという状態が続いている。ただ、できるだけ本人の希望を考慮し、入る時間やタイミングを工夫し支援している。	週2回の入浴を目安にしている。浴室は広くて明るく大型の浴槽には踏み台と手すりが完備され、時には仲よし同志でゆっくりと入浴している。入浴を拒む時にはタイミングを見計らい支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はお昼寝の時間を設けたり、就寝時間も本人の希望を考慮しながら、十分に休息が取れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の個人ファイルに薬情報の用紙を綴っており、職員が薬の使用目的や副作用等を理解できるよう工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のレクリエーションや誕生会、月毎に行う各種行事など、利用者一人一人が楽しみや張り合いのある日々を過ごせるよう支援している。		

グループホーム もりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(花ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい季節は職員付き添いにて散歩に出かけたり、大きな行事として外出に行くなどの支援を行っている。また、年に何回かではあるが、家族宅へ外泊する利用者もおり、家族と協力・連携しながら支援を行っている。	春のお花見から秋の紅葉見学までの暖かい期間は、毎月1度、遠出のドライブに出かけてストレスの発散と気分転換をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には大きな金額の金銭は所持していただかないことになっているが、ご本人やご家族の希望にて小銭程度の金額であれば所持していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設内に公衆電話を設置しており、ご本人が希望したときには電話できるよう支援している。また、ご家族様とは電話の頻度などを都度話し合うようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎に壁画や貼り絵を変えたり、各利用者の居室前にご自身の写真を貼るなどの工夫をしている。また、ホールや居室内の温度や湿度についても快適に過ごせるよう配慮している。	玄関と事務室を中央に各ユニットが両サイドにある平屋造りで、玄関ロビーは日本風な造りの中にお雛様が飾られている。壁には職員と利用者が作った大型の暦が張られ、不快な臭いもなくユニット間は区別がなく利用者は自由に往来している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者同士の座席の工夫や居室への訪問の支援を行っている。共用空間には独りになれる場所が現在ないので、今後はそのような場所の設置も検討していきたい。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使っているものを居室に置いたり、大事にしている写真などを見える場所に置くなどの配慮をしている。また、居心地良く過ごしてもらえようテレビやベッドの配置に気を配って支援している。	居室はクローゼットと洗面台が備え付けられており陽当たりがよく、在宅当時の家具や日用品を持ち込んでいる。家族の写真や孫からの手紙があり、それぞれに居心地よく過ごせるよう工夫が見受けられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館/バリアフリー対応にしており、廊下やトイレには手すりを設置している。居室前にはご本人が自分の部屋だとわかるよう表札を掲示している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191513662		
法人名	社会福祉法人 純心福祉会		
事業所名	グループホーム もりの家 鳥ユニット		
所在地	北海道茅部郡森町字上台町330番地85		
自己評価作成日	平成31年1月15日	評価結果市町村受理日	平成31年2月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=0191513662-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人一人がその人らしく暮らしていけるよう、自立支援の考えのもと、日常生活全般のお手伝いを行い、施設での生活が安心・安全・安楽に過ごせるよう支援しています。また、他者との交流を深める目的や、身体機能の低下を防ぐという目的のため、レクリエーションや各種行事(季節ごとのイベント)の場をより多く提供しています。その他、訪問看護ステーションや隣接する病院など、医療との連携を密に図りながら、利用者様の体調の管理に努めています。職員への指導や育成については、内部での勉強会を毎月行い・外部での研修に参加するなど、職員個々のスキルアップに繋がるような取り組みを実施しています。今後はグループホームの特色をより活かせるよう職員全員が意識を高く持ち、よりよい施設にしていけるよう最善の努力を行っていきたく思います。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成31年2月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	○			○	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(鳥ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼にて、勤務者全員で施設理念を読み上げ、各職員に周知させている。また、職員一人一人が施設理念を意識して業務にあたっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設内行事で、町内にある保育園からの慰問の受け入れを行ったり、町内の飲食店へ外食する機会を設けたり、できるだけ地域との交流を持つよう努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	二か月に一度、運営推進会議にて施設での認知症の利用者への支援方法等を説明・報告を行っている。また、その際に様々な方の意見を聞き、話し合う場を設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて現在の入居者情報・入退去情報・職員情報・アクシデント報告・行事報告などを行っている。また、参加された方々から様々な意見をいただいている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の開催や地域包括ケア会議への参加を通じて良好な関係を築けるよう努めている。また、役場の介護保険課の担当者との連絡も密に取るようにしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	三か月に一度の頻度で身体拘束防止についての施設内勉強会を開催している。玄関の施錠に関しては、夜間のみ行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員への学ぶ機会を設け、身体拘束防止とともに、高齢者虐待防止についての勉強会も定期的を開催している。		

グループホーム もりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(鳥ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護や成年後見制度について理解しているが、全職員に周知するところまでには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は時間をかけ丁寧に説明するよう心掛けている。ご家族様がわからないことや疑問に思うことに対しても誠意を持って答えられるよう努力している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などでご家族様へ直接ご意見を伺ったり、御意見・御要望箱を設置し対応している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全体会議を開催しており、その他にも定期的な職員との面談で意見や提案を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各委員会・各入居者担当・各係りを決めるなど、全職員がやりがいや向上心を持ち業務に臨めるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修の実施、外部研修への参加など、研修を受ける機会の確保を行っている。また、日々の業務の中においても、ベテラン職員などが適切なアドバイスができるよう指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会への参加、地域包括ケア会議での意見交換など行い、ネットワーク作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(鳥ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談にてご本人様の要望や意向を確認し、できるだけ意向に沿える支援ができるよう心掛け、徐々に良好な信頼関係が構築できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談や契約時において、ご家族様の要望や意向を確認し、良好な信頼関係が構築できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用開始の段階において、ご本人様・ご家族様がどのようなサービスを望んでいるのかを確認している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームの特性である家庭的な雰囲気というものを大切にし、職員と利用者が家族のような関係性が持てるよう支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは電話や面会時においてよく話し合いを行い、利用者本人を共に支え合う関係性を築けるよう努力している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	古くからの知人や友人との面会や電話連絡が途切れないよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや毎月の大きな行事など、利用者同士の交流が盛んに図れるよう支援している。		

グループホーム もりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(鳥ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退後においても、本人や家族から連絡があったときは話を聞き、相談やその後の支援にできるだけ関わるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションを取る際など、出来る限りご本人の希望や意向を汲み取るよう心掛けている。意向の確認が困難な場合は、表情や家族からの聞き取りなどで支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴やこれまでのサービス利用の経過などの把握については、ご家族様や知人、友人、担当していたケアマネなどからの聞き取りを行うことで対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録やバイタルチェック表などを細かく記載することで、心身状態の把握等ができるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを行うにあたっては、各関係者からの意見を聞きながら、概ね三か月に一度の頻度で行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録として日々の状態を記載、また、申し送りノートを活用しながら、職員間で情報を共有し、実践や介護計画の見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医や他科受診、訪問看護ステーションとの連携など、柔軟な支援やサービスが提供できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外食のため地元の飲食店へ出掛けたり、行事の際に、地元の保育園の園児達を呼び、催しものを行っていただくなどの地域資源の活用を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の往診を毎月一度定期的に受けている。また、その症状に合わせ、ご本人・ご家族と相談しながら他科受診の支援も行っている。		

グループホーム もりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(鳥ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在は訪問看護ステーションとの連携を行っており、毎週1回施設に来てもらい体調面の相談をしている。その他、24時間連絡できる体制も確保している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	隣接する森の里病院の主治医や看護師、森町国民健康保険病院の相談員との連携を密に図り、入退院時早期に対応できる体制を整えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時の際、ご家族様へ重度化した場合などについての対応を説明し、そのような場合になったときのご家族様の意向の確認等を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応について、全体会議の際など、全職員へ説明等を行い周知するよう指導している。特に夜間における対応については、日常的に職員と意見を交わしながら迅速に対応できるよう心掛けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防立ち合いの元、避難訓練や消火訓練、通報訓練等を行っている。地域にむけては、運営推進会議の場などにおいて、協力関係を構築できるよう提案・説明している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけについては、職員同士で指摘しあうような取り組みを行っている。正しくない声かけなどがあった場合など、お互いが注意できる環境作りも行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の考えなどを押し付けるのではなく、あくまでも物事を決定していくのは利用者本人であるということをも全職員に周知させ、日々の業務においても意識するよう指導している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間で決め縛るような支援のないよう、利用者一人一人の生活のペースを把握し、出来る限りそのらしく自分のペースでその日を過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとにあつた服装の提案やご本人が望む衣服の着用の支援をしている。また、服と一緒に選ぶなどの支援も行っている。		

グループホーム もりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(鳥ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者各自の好みを把握し、できるだけ食事を楽しめるようメニューを工夫し支援している。準備や片付けは、各利用者のできることを把握し、できる部分のお手伝いをしてもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を考え、栄養バランスの取れた食事内容を提供している。食事量や水分摂取量についても、チェック表を活用し、適切な量を摂取できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの支援を行っている。その方法は、その方の残存機能を把握しながら支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレでの排泄が続けられるよう支援している。尿意のあまりない利用者へは、時間を見ながら声がけし、排泄を促すなどの支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の補給、適度な運動、栄養バランスの工夫など、便秘の予防と対策を考え支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	人員の関係などもあり、入浴日を決めて支援しているという状態が続いている。ただ、できるだけご本人の希望を考慮し、入る時間やタイミングを工夫し支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や起床時間について、施設側の都合などでは決めず、ご本人のこれまでの生活習慣などを考慮し、できるだけ本人のペースで休息できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の個人ファイルに薬情報の用紙を綴っており、職員が薬の使用目的や副作用等を理解できるよう工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のレクリエーションや誕生会、月毎に行う各種行事など、利用者一人一人が楽しみや張り合いのある日々を過ごせるよう支援している。		

グループホーム もりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(鳥ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬は厳しいが、それ以外の暖かい季節においては、日中散歩に出かけたり、レクリエーションとして遠方までドライブに出かけるという支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には大きな金額の金銭は所持していただかないことになっているが、ご本人やご家族の希望にて小銭程度の金額であれば所持していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設内に公衆電話を設置しており、ご本人が希望したときには電話できるよう支援している。また、ご家族様とは電話の頻度などを都度話し合うようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎に壁画や貼り絵を変えたり、各利用者の居室前にご自身の写真を貼るなどの工夫をしている。また、ホールや居室内の温度や湿度についても快適に過ごせるよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中には完全に独りで過ごせるような場所はないが、気の合った利用者同士の席を近くするなど、居場所作りの工夫を行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使っているものを居室に置いたり、大事にしている写真などを見える場所に置くなどの配慮をしている。また、居心地良く過ごしてもらえようテレビやベッドの配置に気を配って支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリー対応にしており、廊下やトイレには手すりを設置している。居室前にはご本人が自分の部屋だとわかるよう表札を掲示している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム もりの家

作成日：平成 31年 2月 28日

市町村受理日：平成 31年 2月 28日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	現在は、医療との連携が十分とは言えず、事業所でできることに限りがある。また、地域の関係者とチームとして支援に取り組んでいるとは現状言えない。	将来的には医療との連携が密になり、当施設においても看取りの支援を行えるようにしたい。	現在連携を取っている医師や訪問看護ステーションの看護師と今後も連携強化について話し合う。	1年
2	35	避難訓練により火災に対する対策は行っているが、地震やその他の災害対策については不十分である。	火災だけではなく、地震やその他の災害についても十分な対策ができる。	年に2回の避難訓練の際に、火災以外の災害時を想定し訓練を行う。	1年
3	45	人員不足の関係もあり、入浴は曜日を決め週に2回で行っている。	月曜から金曜まで毎日入浴を行えるようにしていきたい。	ハローワークや求人誌を利用しての人員の確保に向けた取り組みを行っている。	1年
4	53	当施設において、共用空間には入居者が独りになれる場所が現在ない。	入居者が独りになってリラックスできる場所を作りたい。	仕切りを設ける、物の配置を変えてスペースを確保するなどを検討中。	1年
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。